

地域の6次産業を育てる！

第2回

西日本シティ銀行

「沖縄車えび周年販売プロジェクト」・
「ウナギ再養殖・加工販売プロジェクト」の取り組み

「育てる漁業」にこだわりを持つ 二つの養殖事業の起上げを支援

ファンドの活用を通してリレーシヨンの深化を図る

東 京よりも中国大陸や朝鮮半島に地理的に近い距離にある九州は、古くから海外との交流の門戸となってきた。そのため、九州、特に福岡県人は開放的で新進の気質に富むといわれている。

今回、ご紹介するのは農林漁業成長産業化支援機構（以下「支援機構」）の出資合意案件のうちの

2事例で、NCB九州6次化応援投資事業有限責任組合（以下「NCB6次化ファンド」）が出資・経営支援を行う「沖縄車えび周年販売プロジェクト」と「ウナギ再養殖・加工販売プロジェクト」だ。双方とも福岡発の6次産業である。

NCB6次化ファンドは、西日本シティ銀行と支援機構が共同出資して、主に九州圏（九州各県、山口県等）における1次産業事業者と2次・3次産業事業者との連携により、新たな事業機会の創造、付加価値の創造という6次産業化を目的としたファンド。西日本シティ銀行と支援機構を有限責任

組合員とし、同行のグループ会社であるNCBリサーチ&コンサルティングが無限責任組合員としてファンドの運営・管理を行う。出資総額は20億円である。

消費者ニーズを踏まえて加工・販売をサポート

西日本シティ銀行は数年前から農林漁業者の支援に力を注いできた。現在、同分野を担当する本部組織は法人ソリューション部に置かれている。フロント部門としては、コーポレートアドバイザリー

グループの農業チームが九州一円の農林漁業者に直接アプローチして、資金ニーズへの対応をはじめ、異業種との連携や6次産業化などの経営課題に適切なソリューションを提供する。

6次産業化を志向する事業者に対しては、フィナンシャルアドバイザーグループが事業性を見極めや事業計画策定、エクイティファイナンスを中心とした資金調達方法などについて手厚い支援を展開している。

また、法人ソリューション部では、九州各県と連携して、農林漁業者向けに6次産業化に求められる商品企画・開発等のセミナーや流通業者等との商談会を開催したり、異業種からの農業参入セミナーを開催したりして、九州全域の6次産業化のニーズを収集するとともに、成長産業化の後押しを積極展開してきた。

「私どもは九州全域を地元であると考えて営業展開しています。拠点を構える福岡は九州一の消費地ですので、一番マーケットに近い地域金融機関だといえます。九州

の1次生産者の皆様は、高い生産技術を持ち、販路拡大を志向するなど事業拡大に意欲的な方が多くいらっしやいます。加工・販売に関しては専門外です。したがって、マーケットに近い立場にいる私どもが消費者ニーズを踏まえ、加工・販売のお手伝いをしていければと考えております。その有力な支援ツールの一つが、NCB6次化ファンドなのです」（広川淳一郎・法人ソリューション部フィナンシャルアドバイザーグループ・主任調査役）

「獲る漁業」から「育てる漁業」へシフト

温暖な気候と変化に富んだ自然

を持つ九州は、農業・林業・漁業とも盛んな地域。各県がそれぞれに地域特性を発揮して、1次産業に取り組んでいる。その生産品は九州内での消費に留まらず、関東・関西など全国各地の食卓に届けられており、日本の食糧基地ともなっているのである。

九州の農業の地域的な特徴を見ると、北部は筑紫平野や佐賀平野

が広がり、米作に加え、野菜や果樹の栽培が盛ん。収穫量全国トップの二条大麦や「博多あまおう」で知られるイチゴの栽培などが行われている。

一方、南部は鹿児島・熊本・宮崎県を中心に畜産業が活発。全国に知られる数々のブランド牛やブランド豚を生産。九州の肉用牛の飼養頭数は全国の36%、豚の飼養頭数は同32%を占めている（平成25年2月現在）。

四方を海に囲まれた九州の漁業では、様々な漁法が用いられ、多彩な魚介類が水揚げされている。特に玄界灘の豊かな漁場で獲れる魚介類は、荒波にもまれ身が引き締まり絶品といわれる。

ただ、漁船の大型化や最新設備の導入等で漁獲能力が高まるにつれ、海洋資源は全国的に減少している。九州の海域も例外ではない。海洋資源を守り育てるには、漁獲制限や稚魚の放流、海の清掃などのほか、養殖漁業に取り組み必要がある。九州の水産業者は養殖漁業にも積極的で、全国約3割の収穫量を誇る。

